

- 第一 學識 普通ノ教育ヲ受ケタル者
  - 第二 年齢 十六年以上三十年以下ノ男若クハ女
  - 第三 技藝 雅樂又ハ俗曲ヲ心得タル者ハ更ニヨシ
  - 第四 學習期限 壹ケ年以上滞在見込ノ者
- 以上

乙按

來九月音樂傳習生二十五名ヲ限り試験ノ上入學ヲ許ス因テ諸府縣ニ於テ右傳習生派出致度向ハ左ノ諸項相心得來ル六月三十日迄二本掛へ申出ベシ

- 第一 學識 普通ノ教育ヲ受ケタル者
  - 第二 年齢 十六年以上三十年以下ノ男若クハ女
  - 第三 技藝 雅樂又ハ俗曲ヲ心得タル者ハ更ニヨシ
  - 第四 學習期限 壹ケ年以上滞在見込ノ者
- 右之外更ニ詳細規則等承知致度向ハ直チニ本掛へ照會アルヘシ
- 明治十七年四月

本郷元富士町文部省用地内

文部省音樂取調掛〔手書き〕

〔音監經伺書類〕明治十七年

この案文は問題なく裁可され、これによって応募した十四府県派遣生は、十七年九月九日に入学試験を受けることとなった。試験科目は数学、作文、唱歌、読書、既修樂器など。この結果女子二名が及第した。しかし年々応募する派遣生が増えるに従って合格者も多くなり、彼らは一年間の養成のちそれぞれ所属府県に帰り、唱歌教員として活躍した。この制度は東京音楽学校の師範科を導く母体となったものと思われる。

(七) 音樂取調掛における音樂教育の経過報告 明治十七年、報告者 伊澤修二

音樂唱歌傳習ノ事

音樂取調ノ事業ハ舊ニ理論上ニ之ヲ討究シ若シクハ之ヲ言語詞章ノ間ニ求ムベカラズ特ニ實際演奏上ニ就テ之ガ討究ヲ要スル事甚タ多シ故ニ本掛所撰ノ歌曲ノ如キモ實際試施設校訂スルニ非ザレバ其可否得失ヲ察スル能ハズ且教師備入期限モ僅々数年ニ属スレバタトヒ其尽力非常ニ出ツルモ限リアル年月ヲ以テ限リナキ大業ニ就キ絶大ノ効績ヲ奏スルハ殆ド望ムベカラザルニ近シ因テ從來我國ノ音樂ニ習熟スル者ヲシテ其術ヲ傳ヘシメバ將來我邦音樂ノ上進ヲ計ルノ第一歩タルベキヲ以テ明治十三年九月本掛ニ於テ音樂傳習生三十名ヲ募ル此募ニ應ジ能ク及第スル者二十二人アリ則其十月之ニ入學許可ヲ與フ同十四年二月更ニ之ヲ募リ試験ヲ經能ク試格ニ適スル者十二人ナリ乃チ之ニ傳習假許可ヲ與フ爾後其勤學効アルヲ以テ本許可ヲ與ヘタリ後更ニ諸府縣ヨリ召募ニ應ゼントスル者マタ少カラズト雖トモ其人員既ニ満ルヲ以テ之ヲ許スヲ得ザリキ因テ同十五年二月マタ之ヲ募ントセシニ裁可延遷ニ及ビ加フルニ本年ハ教師メーソン氏賜暇歸國掛長學事巡視出張等ノ事故ヲ以テ之ヲ延ス但シ本年九月諸府縣派出師範學科取調員拾七名通學ヲ許シ外ニ東京女子師範學校女教員及京都府派出唱歌傳習員等ニ入學ヲ許ス同十六年二月傳習生三十名ヲ募ル其試格ニ適スル者十二名ニ入學ヲ許ス尋テ更ニ埼玉、福島、滋賀三縣派出唱歌傳習生ニ入學ヲ許ス傳習生中本掛ニ登用シタル者ハ明治十四年二月四人同九月一人同十五年三月二人十二月一人アリ或ハ助教員ト為シ或ハ助手員ト為ス同十六年四月長野縣下田

中學校ニ聘セラル、者一人アリ同七月府縣派出師範學科取調員十一人及埼玉福島二縣派出唱歌傳習生二人都合十三人ニ唱歌風琴等若干曲卒業證狀ヲ附與ス同月二年後期傳習生三人三年後期同三人合六人ニ見習生ヲ命ス

東京師範學校ニ於テハ明治十三年四月附属小學校生徒ニ傳習ヲ始ム同七月本科第二級ニ傳習ヲ始ム同十五年二月豫科生ニ之ヲ始ム同十六年九月一般ニ及ボス方今唱歌ヲ習學セル生徒ノ現數ハ本校生徒百三十拾五人附属小學校生徒百九拾五人合計三百三十拾人トス

東京女子師範學校ニ於テハ明治十三年四月本科生及附属小學生ニ傳習ヲ始ム同十四年二月豫科生ニ之ヲ施シ同九月幼稚園ニ及ボス方今唱歌ヲ習學セル生徒ノ現數ハ本科百零一人附属高等女學科生(旧豫科生徒)百零壹人同小學生二百九拾人同幼稚園生百六拾六人合計六百五拾八人トス學習院ニ於テハ明治十四年九月長年生幼年生及女生徒ニ唱歌傳習ヲ始ム方今業ヲ受クル生徒ノ現數ハ男子百九人女子四十六人計百五拾五人トス

抑両師範學校生徒ニ唱歌傳習ヲ始メタルハ前ニ陳述セル如ク實際試施ヲ要スルヲ以テ之ヲ開キシモノナリ故ニ最初即チ明治十三年ニ在テハ發音ノ方法ヨリ漸次八音ノ結合等ニ至リ皆自然ノ順序ニ從ヒテ音聲發育ノ大要ヲ授クルニ止レリ同十四年ニ在テハ單音歌曲ノ体ヲ成スニ至リ稍進歩ヲ占ム同十五年ニ在テハ複音ヨリ和聲ノ初歩ニ入ルノ地位ニ至リ其進歩見ルベキヲ致セリ同十六年ニ至テハ則チ本掛制定ノ規則ニ依テ之ヲ傳習シ遂ニ音樂唱歌ヲ以テ正科ノ一ト為スニ至レリ各校進歩ノ情況ニ就テ之ヲ云ハゞ東京師範學校生徒ハ傳習ノ時間ニ乏シト雖モマタ其學業ノ素アルヨリ音樂ノ理義ヲ解スルニ

易ク為ニ自助ノ益ヲ得進歩ノ速カナルヲ致セリ女子師範學校生徒ハ女子ノ質トシテ音聲トイヒ氣韻トイフモ自然音樂ニ適スルトコロアリ特ニ進歩ノ著明ナルヲ致セリ兩附属小學校及幼稚園生徒ノ如キハ最モ年齒ニ富ミ皆人聲變轉ノ以前ニ属スルヲ以テ音声鍛鍊ノ最好時節ニ在リ加之其修學年間ノ緩長ナルヨリ唱歌ノ傳習モマタ緩ニシテ密ナリ故ヲ以テ其進歩モマタ正當ノ順序ニ出テ嘆賞ニ堪ヘザルナリ且唱歌傳習以來自然体育上及德育上ニ感化ヲ及ホシタルハ既ニ見ルベキ所アルモノ、如シ學習院ニ唱歌傳習ヲ開キシハ本來該院ノ依頼ニ由リ本掛助教員唱歌授業術研究ノ為臨教スルトコロナリ本院生徒ハ華族ノ子弟多キニ居リ美術上ニ於テハ自ラ高等ノ氣韻ヲ有スル者ノ如クニシテマタ其進歩モ大ニ觀ルベキモノアリ

洋琴ハ音樂各科ノ基礎トナルベキモノニシテ苟モ音樂ヲ以テ専門トスルモノニハ最モ欠ク可ラザル所ノモノナリ是ヲ以テ本掛ニ於テハ齊シク之ヲ各生徒ニ課シ其傳習ヲ務メタリ從來本邦人中能ク此教授ニ任スベキモノナク當初ハメーソン氏之ヲ傳習シタリシガ幸ニ瓜生繁女ノ米國ニ於テ該科ヲ卒業シ歸國シタルニヨリ方今ニ在リテハ專ラ同人之ヲ教授シ其進歩モ大ニ見ルベキモノアルヲ致セリ又其調律ハ能ク音律ニ達スルモノニ非レハ得テ能ハザル所ナレトモ本掛助教員中其技術ヲ傳習シテ調律ヲ負擔シ得ルモノアリ為メニ外國人ヲ招キテ巨多ノ調律料ヲ支出スルヲ要セザルニ至レリ是レ實ニ理財上ノ論ノミナラズ又以テ音樂進歩ノ一端ヲ證スルニ足ルベシ

管絃樂ハ西國ノ音樂中最高ノ地位ヲ占ムルモノナリ故ニ本掛ニ於テハ本邦ノ雅樂ニ熟セル者其他音樂ニオアル者ニ此樂ノ傳習ヲ施セシニ教師メーソン氏能ク力ヲ茲ニ竭シ傳習人ノ進歩見ルベキヲ致セ

リメーンソン氏帰國ノ後ハ獨逸國音樂教師エツケルト氏特ニ來リテ其業ヲ執リ教導頗ル嚴勵ナリ是ヲ以テ方今ハ只管教師ノ手ニ倚ラズ樂譜ノミニ依テ樂曲ヲ演奏シ得ベキノ地位ニ至レリ抑此管絃樂ヲ以テ公衆ノ會同セル席上ニ演奏シタルハ明治十四年五月皇后宮東京女子師範學校ニ行啓ノ節ヲ始トシテ爾後音樂取調成績報告會兩師範學校春秋卒業式學習院等ニ於テ之ヲ演奏シ屢中外人ヲ驚嘆セシムルニ至レリ管絃樂傳習人中進歩ノ特ニ著シキハ伶官出身ノ輩ナリ抑我朝ハ二千五百有餘年大統領連綿タル國体ニシテ雅樂モ為ニ其成立ヲ久シウスルヲ以テ古來伶官ノ職アリ世々相襲ヘリ故ヲ以テ其耳力即チ音律聽別力ノ鋭敏ナル事非常ナリ蓋シ音樂唱奏ノ細法ニ至テハ彼我東西ノ間小差ナキニ非スト雖モ音樂作用ノ自然ニ於テハ古今天下ノ異ナルトコロナキニヨリ雅樂ヲ練習セル耳力ヲ以テ西國管絃樂ヲ練習スルノ毫モ障ナキノミナラズナホ其進歩ノ特ニ較著ナル所以ナリ

〔手書き〕〔『音樂取調掛成績申報書』明治十七年、草稿〕

### 参考資料 I 中村專 『和聲學ノート』

メーンソンは伝習生の中で特に優秀な中村專および鳥居忱と雅樂部の伶人上眞行、奥好義、辻則承、東儀彭實らに対し、和声の特別講義を行った。これは日本における最初の和声授業である。和声的感覚のなかった日本人にそれはどのように理解され、浸透していったか、その受容過程の研究上重要な資料となるものである。メーンソンの講義は英語で行われた。中村專も英語で書き取っている。彼女は第一回（明治十三年十月入学）の音楽取調掛伝習生で、箏、ピアノ、ヴァイオリンに秀れ、英語も達者であったため、メーンソンに大変気に入られた。メーンソンは通訳官の岡倉覺三（天心）をさておき、彼女の通訳で授業をしていたことである。明治十四年九月から助教として英語と箏を教えている。メーンソン

は帰國に際し、アメリカから持参した愛用の燭台つきピアノを中村專に贈った。このピアノは現在東京芸術大学の芸術資料館に所蔵されている。彼女はのちに東京師範学校校長高嶺秀夫夫人となった。高嶺秀夫は明治三十七年から四十年まで東京音楽学校校長をつとめた。現音楽学部の助教授土田英三郎氏は高嶺秀夫・専子夫妻の曾孫に当る。その関係でこの『和聲學ノート』は土田家から提供していただいた。

#### Lecture [原文通り]

- No. 1 Prime, Second, Third Intervals, Distinction of Major and Minor Third.
- No. 2 Intervals of fourth, fifth and sixth.
- No. 3 Seventh, Octave, Triad.
- No. 4 Inversions of the Intervals.
- No. 5 Inversions Continued.  
The Seventh chord of 5<sup>th</sup> degree, Resolution.
- No. 6 The Natural Relation of the Triad. Natural Progression.
- No. 7 Progression Continued.
- No. 8 Difference between Position of Triad and Inversion.
- No. 9 Different movements of parts or voices.
- No. 10 The Chord of Ninth.
- No. 11 The Passing Note.
- No. 12 Practical Exercises of human voices. Interval.
- No. 13 The Systematic Review of Harmony.
- No. 14 The Use of Inversions. Six four chord.
- No. 15 Harmonic Minor Scale.
- No. 16 The Illustration of Minor Major Semitone.
- No. 17 The Intervals.
- No. 18 Perfect and Imperfect Conchords.